

葦

大阪発達総合療育センター機関紙
第36号 2020年 冬

INDEX

- ・年頭の挨拶・葦に寄せて……………1P
- ・新しいチャレンジ～技能実習生について……………4P
- ・インド手外科学会報告……………2P
- ・法人創立50周年記念企画『人文字』……………5P
- ・院内学会清水賞……………3P
- ・リレーエッセイ……………5P
- ・近代ボース概念小児領域基礎講習会報告……………3P
- ・イベントトピックス/職員研修実績状況……………6P
- ・日本小児呼吸器学会優秀演題賞……………4P
- ・寄付金と寄付物品……………6P

■年頭の挨拶

大阪発達総合療育センター 理事長

梶浦 一郎



新年あけましておめでとうございます。本年も無事正月を迎えることができました。毎年のごとく、正月の日は何とも言えない新鮮な気持ちになります。特に令和という響きは大変優美であり、そして明るい感じがいたします。ぜひ今年には令和に相応しい平和で穏やかな年でありますよう祈ります。

さて、昨年を振り返りますと台風15号19号と次々に襲われ、東日本や日本海側の人々は大変な目に遭われました。自然の猛威には人間は無力で、被災された方々にはご健闘を祈るばかりです。ですがこのようなくらいニュースが多かった反面、明るいニュースもありました。例えば「平成」から「令和」という明るい響きをもった新しい時代になったことです。世界を見渡すと世代交代ともなれば陰惨な事件も見られることもありますが、日本らしい平和な方法で執り行われたことは嬉しい限りです。また全英ゴルフで見せた渋野日向子さんの笑顔が「シンデレラスマイル」と世界に絶賛されたことや、吉野博士のノーベル賞も素晴らしいことでした。日本の誇りがまた一つ増え大変嬉しく思いました。

私たちのセンターは今年でいよいよ創立50周年を迎えます。1970年大阪万博開催と同じ年に開園し、今度は2020年東京オリンピック開催される年に50年を迎える年という、何か因縁を感じます。振り返ってみますと50年というのは大変短く感じますが、その間本当には多くの職員の皆様、地域の人々、利用者の方々など、多くの方からの協力、努力、苦勞がありその賜物だと、改めて心から御礼申し上げます。そして今後のセンターについても、センターのこれまでの良き伝統である「謙虚と挑戦」の心を忘れることなく、一層発展させるよう皆様のご健闘をお願いいたします。社会情勢は国の内外を問わず非常に大きな転換期をむかえています。きっと多くの困難が待ち受けていることでしょう。しかしそれに打ち勝ちさらに飛躍し、次の50年の時には笑って振り返ることができるようになりたいものです。50年先に事を想像するのは楽しいものです。

最後になりましたが、皆様にとって良い年になりますよう心より祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

■特集に寄せて

大阪発達総合療育センター 副センター長

船戸 正久



2019年12月中国から始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のニュースが世界中を飛び回り、日本でも様々な形で報告されています。中国および日本でもその対応についてWHO始め世界中から注目されています。こうした時期であるからこそ、2019年流行語大賞となった「ワンチーム」が非常に大切です。

今回の内容は、川端院長のインド手外科学会報告、さらに療育の学術的土台である院内学会（最優秀賞・優秀賞）および清水賞（本賞・奨励賞）、外部学会での優秀演題賞受賞の報告です。さらに2021年1月にはベトナムから3名の介護技能実習生が来られます。皆さんの温かいおもてなしを期待します。



インド手外科学会報告

南大阪小児リハビリテーション病院 院長 川端 秀彦

2019年9月13日から15日にかけてインド手外科学会にOratorとして参加しました。開催地はプリーという人口約20万人の東海岸の地方都市です。一番近い名の通った大都市はコルカタ（旧名：カルカッタ）で、そこから南西へ約350kmに位置します。ただ交通の便は良くなくて今回は一旦韓国のソウル、そこからデリーに飛んで、さらにそこで一泊してから国内線に乗り継いでプリーに入りました。空の上にいるのは12時間くらいですが乗り継ぎや宿泊も含めると片道1日半の長旅でした。Oratorというのは簡単に言えば学会の主賓なのですが、立派な席に飾ってもらえるのではなくたくさんの講演を頼まれます。今回も約30分の講演を4つ、分娩麻痺に対する肋間神経移行術、内反手の治療、母指形成不全の治療、上肢の骨延長のテーマで行ってきました。もう一人のOratorはアメリカテキサス州にあるScotish Rite Hospital for ChildrenのScot Oishi先生でした。彼は日系三世で、図らずも東洋系の顔をしたふたりが招かれたと言うことです。それ以外にもヨーロッパから多数の医師がやってきて講演を行い、インドの国内学会ではあるもののさながら国際学会の様相を呈していました。もちろん公用語は英語で、このあたりが日本の国内学会とは様子が違ってきます。学会終了の翌日には州都ブバネシュワールにあるKalinga Institute of Medical Science（右上写真）を訪問し、施設見学と症例検討会に参加しました。ここはインド国立の医学部と付属病院の施設で、医学部では毎年100人の学生を受け入れています。正面玄関にその年の最優秀卒業生の名前が掲げられていたのが印象的でした。

空き時間には学会場から自動車で1時間のところにあ



るユネスコ世界遺産に登録されているコナークサン寺院（右下写真）を見学しました。この寺院は13世紀に建造された太陽神殿で、神殿全体が古代の馬車戦車を形作っています。私の頂いた額に入った銀細工もその戦車の車輪を形どったものでした。また、寺院の壁面には至る所にミトゥナ像を始めとする彫刻が施されており、それらが風化を受けやすい海岸線に位置するにも拘わらず完全な形で残っていることは驚異だとされています。海岸線は風が強いが、きれいな砂浜が何Kmも続いており海水浴客で賑わうリゾート地だと聞かされていましたが、私の見る限りは漁師の使うつまな小屋が建っていただけでした。

駆け足のインド旅行でしたが、現地では休む間もなくのスケジュールで充実した時間を過ごせました。インドはカレーがおいしくて何度行っても面白い国ですが、もし行かれるのであれば生水にはくれぐれも気をつけて下さい。



院内学会 清水賞

2019年12月28日（土）に院内学会を開催し、併せて清水賞の選考を行いました。
受賞内容は以下の通りです。

【院内学会】

受賞	演 題	発表者
最優秀賞	リトミックを取り入れたグループ支援 ～音楽を楽しむことをあきらめないために～	ゆうなぎ園 熊井 秀子
優秀賞	朝食改善プロジェクト ～おいしく楽しく安全な食事の提供をめざして～	看護部わかば病棟 岡村 直保子 栄養科 嶋田 容子
優秀賞	食べたがらない子ども達へのグループ活動 ～摂食嚥下グループめばえでの食べないことから始める親子支援～	リハビリテーション部 言語聴覚療法科 南 昌輝



【清水賞】

受賞	演 題	発表者
清水賞	脳性まひ児に対する「モフ測」アプリを利用した歩行評価の試み	リハビリテーション部 出口 奈和 曲 洋子 辻 薫
奨励賞	在宅移行支援後の現状報告	地域医療連携部 地域医療・福祉相談室 近藤 正子
奨励賞	自発運動の出現と、介助量軽減が家族を後押しし自宅外泊につながった1例 突然死との関連が疑われた腹臥位睡眠の重症心身障害児の3例	リハビリテーション部 馬場 新太郎 井上 伸 医務部 竹本 潔
奨励賞	難聴を伴う重複障害児の幼児期におけるコミュニケーション支援について	ゆうなぎ園 立石 篤識



2019年度 近代ボバース概念小児領域基礎講習会 報告

リハビリテーション部 エキスパート理学療法士 日浦 伸祐



2019年10月7日（月）～11月29日（金）まで当センターにて標記の講習会が開催されました。8週間という長期研修ですが、病院、療育、訪問等からも当講習会の必要性の認知はされており、受講生26名（PT15名、OT9名、ST2名）は北海道から鹿児島まで全国からボバース概念の日本での発祥の地である当センターに参集しました。

紀伊顧問により、日本にボバース概念が導入されて以来、講習会も古典的ボバース概念から近代

概念へと、より実践的な内容に発展してきました。基本概念はボバース夫妻が提唱されたものが生きていますが、治療体系の背景となる理論やそれに伴う治療介入の考え方、方法論も常に発展していきます。

講習会は、知識や治療の方法論を提供するものではなく、受講生の個々の問題解決能力の向上をはかり、利用者さんへの総合的なサポートを展開していくことを目的としています。8週間経過する中で受講生が成長していく過程が感じ取ることができ、受講生からも満足頂いております。

指導者による治療プレゼンテーションや受講生による治療実習では、センターを利用の方々に協力いただきました。子どもたちの可能性を探求していくというボバース概念の本質を受講生も地域に戻っても実践してもらえることを期待しています。また、講習会運営にあたり、センターが一体となり協力頂けたこともセンターの使命を伝えることをできた機会であったと考えます。

第52回日本小児呼吸器学会優秀演題賞 (コ・メディカル部門)受賞について

リハビリテーション部 理学療法士 井上 伸



令和元年11月15、16日に行われた第52回小児呼吸器学会において、「重症心身障害児者を対象としたMI-E施行時の吸気・呼気介助の有無によるCPFの検討」という演題で発表させていただきました。フェニックス病棟で、医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士とともにやっている呼吸ケアの取り組みの中で、MI-E施行時の吸気・呼気介助の方法について検討を行い、MI-E施行時には、呼気介助だけでなく吸気介助も合わせて行うことが有効であることについて発表しました。

この度、コ・メディカル部門において優秀演題賞を受賞しました。

学会は鹿児島県で開催され、出身大学のある鹿児島で受賞できたことを嬉しく思います。発表に際し、抄録の作成や原稿へのご指導いただきました皆様に感謝申し上げます。

この取り組みは、現在も継続しており、吸気介助の手技について新たな方法を用いて検討しています。根拠に基づく、よりよい呼吸ケアを通して利用者様の健康に繋げていきたいと考えています。これからも皆様からのご助言、ご指導のほどお願いいたします。

新しいチャレンジ ～技能実習生について～

療育部療育科 科長補佐 宮崎 俊也

日本は世界で最も高齢化が進んだ国で、総人口の28.4%が高齢者です。

今後介護分野では一層の人材不足が予想され、2018年から国は技能実習生制度に介護分野を追加しました。

この制度を活かし、大阪の医療法人3社が合同でベトナムにおいて介護技能の教室を開きました。ここでは、技能実習での来日前に6～7か月間、日本語と介護技術の基礎を学んでもらいます。講師は3法人から派遣された職員の方々です。生徒達は講義を熱心に聴き、日本語と介護技術を学び真面目で礼儀正しく、そして生活面では日本のルールを取り入れた寮生活を送っています。派遣された講師は言葉だけでなく、文化も違う土地で日本式介護と日本の文化を熱く語る姿はとても魅力的でした。

当法人も2020年度の開講から参加させて頂く事となり、1月14日にベトナムハノイ市において採用面談を行いました。候補となる実習生は50名。10グループに分かれて面談を行い、今回縁があつて3名

の実習生を採用する事になりました。彼女たちは5月から現地で7か月間の講義を受講し、予定では2021年1月に来日し、日本での実習が始まります。

いずれの実習生も家族の期待を一手に引き受けて、異国での実習にチャレンジします。

受け入れる私たちもそんな彼女たちの思いを受け止め、実習を通し日本文化を伝え、日本の良さを理解して頂く事が重要だと思えます。そして、この実習制度を通して当法人の職員の皆さんも成長頂けるようにご協力をお願い致します。



法人創立50周年記念企画『人文字』

療育部療育科 科長 山口 一平



2020年、当法人は創立50周年を迎えます。

この節目の時をどのように迎えるかを話し合う、準備委員会が持たれたのは2018年の5月頃でした。

話し合いでは、特にこの10年間の取り組みの中で、ご利用者様や地域の皆様と共にどのように歩んできたのかを振り返りました。時にはご利用者様から厳しくご意見を頂くこともありましたが、どのような時にも最後には笑顔がある事に気づきました。

そのことから法人創立50周年記念のテーマを『～みんなの笑顔があつまる場所～』とすることにしました。

今回は、創立50周年記念の取り組み第一弾として、2019年12月28日に職員による『人文字』を実施いたしましたのでご報告致します。

この日、令和になり初めての年末、仕事納めの院内学会が行われ無事に終了しました。

そこから約150名の職員による『人文字』が始まりました。まず5階ホールにて簡単な説明を行い、駐車場に移動。紅白のボードを一人一人に渡し、整列しました。

マスは縦12×横17の204マスで職員の中には2マスを担当する者も



いましたが、全員の心が一つになり人文字を作っていくのに、そう時間はかかりませんでした。

真っ白な状態から始まった人文字は、合図ごとに『祝』『50th』『大阪』『ODRC』『愛』『徳』『心』『心』と次々に転換されていきました。終了後は冬空の下で体が冷えてしまいましたが、栄養科によるおにぎりや豚汁の炊き出しにより、身も心も温まりました。自負となりますが、職員の部署や職種を超えた連携はこの日も見事でした。そして、この日もやはり沢山の『笑顔のあつまる場所』になりました。

て、この日もやはり沢山の『笑顔のあつまる場所』になりました。

創立50周年記念企画は、その他にもいくつも企画されています。2020年5月3日に『法人創立50周年記念感謝祭』、11月15日に『法人創立50周年記念式典』の実施予定です。

また、現在進行中の企画は『法人PR動画作成』『ご利用者満足度調査研究』『記念講演』です。様々な企画を通し、ご利用者様、地域の皆様、職員と、この半世紀にわたる当法人の歴史を振り返ると共に、未来にどうつなげていくのかを考え感じられる一年になりますよう、皆様からの更なるご支援の程よろしくお願い申し上げます。



ゆうなぎ園 言語聴覚士
湯村ますみ



『森の妖精まちへいく“のせでん”めぐるリアル謎ときゲーム』『あなたがたどり着いたのは、まだ知らない大阪。謎解きメトロ旅』毎日の通勤電車の中吊り広告や駅のポスターで目にしてきた謎解きゲーム。休日の電車で謎解きキットを持っている人を見かけるうちに、気になってそれぞれ挑戦してきました。

ヒントを手がかりに試行錯誤。謎を解いて目的地を導き出す。ひらめいたとき、答えがわかったときの達成感！次は何か？もしかして！？ちがった…。やっぱり！！と子どもにかえったように、わくわくしながら解くことができました。途中休憩に、たまたま見つけたお店でのランチや、行列のできるスイーツを食べたり、寄り道をしながら丸1日楽しむことができました。降りたこ

とのない駅での発見や、いつもの駅も謎解きの目線で見れば新しい一面を見つけることができました。謎解き中にキットを持った親子やカップル、団体、おひとり様等々を見かけて老若男女が楽しめるゲームだと思いました。ぜひ、みなさんも行き先のわからない乗車券を手に、まだ知らない〇〇を探す旅に出かけてみてはいかがでしょうか？

また、謎解きで感じた“達成感”や“わくわく”を日々の子どものための支援に取り入れていきたいと思っています。

次回はフェニックス3階 看護師 国本愛合子職員です。お楽しみに！

職員研修実施状況

令和元年10月～12月

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
令和元年10月5日(土) 9:00～17:00	運営局・ 教育研修部	「中堅職員研修」	株式会社インソース 重里恭子氏	22名	5階ホール
令和元年10月30日(水) 17:40～18:40	教育研修部	人権研修 地域自立支援研究プロジェクト交流会	岸田美智子氏	15名	1階理学療法室
令和元年10月31日(木) 17:40～19:00	感染管理委員会 教育研修部	感染管理対策研修 「ノロウイルス対策について」	大阪府済生会泉尾病院 感染管理認定看護師 田中ちよ氏	95名	5階ホール
令和元年11月13日(水) 17:40～18:40	教育研修部	人権研修 地域自立支援研究プロジェクト学習会 「強制不妊手術について考える」	岸田美智子氏	30名	5階ホール
令和元年11月16日(土) 10:00～16:45	運営局・ 教育研修部	「タイムマネジメント研修」	株式会社インソース 川北真也氏	17名	5階ホール
令和元年12月11日(水) 17:40～18:40	教育研修部	人権研修 地域自立支援研究プロジェクト交流会	岸田美智子氏	13名	1階理学療法室
令和元年12月12日(木) 17:40～18:40	運営局	事業説明会	梶浦正運営局長	76名	5階ホール
令和元年12月14日(土) 10:00～16:45	運営局・ 教育研修部	「主任研修 組織のタイムマネジメント」	株式会社インソース 川北真也氏	25名	5階ホール
令和元年12月28日(土) 9:00～13:00	教育研修部	院内学会 演題発表 「Aさんと母に寄り添う生活介護事業 ～母子ともにそれぞれが充実した日中へ～」 「訪問診療におけるお誕生日のお祝い ～ご家族 の思いを中心とした質問紙調査から～」 「朝食改善プロジェクト ～おいしく楽しく 安全な食事の提供をめざして～」 「食べたがらない子ども達へのグループ活動 ～摂食嚥下グループめばえての食べないことから始める親子支援～」 「リトミックを取り入れたグループ支援 ～音楽を楽しむことをあきらめないために～」 「支援を通して変化するご家族の思い ～意思 疎通が困難な重症児の看取りに向き合う～」 医療安全研修会 「インシデント報告」 情報セキュリティ研修会 「センター内ネットワークについて」 講演会 「医療型障害児入所施設におけるACP(事前ケアプラン)」	療育部などで 苑田徳子 岡本美智子 看護部訪問診療担当 糸井幸江 看護部わかば病棟 岡村直保子 運営局栄養科 嶋田谷子 リハビリテーション部 言語聴覚療法科 南昌輝 ゆうなぎ園 熊井秀子 看護部フェニックス3階病棟 水野真有 わかば病棟 久保田裕美 看護部医療安全担当 内本薫主任 富裕三事務部次長 秋月純一システムエンジニア 船戸正久副センター長 稲田律子療育部長	201名	5階ホール

イベントピックアップ ザ・リッツカールトン 来院

本年もザ・リッツカールトン大阪が本院に来院頂きまして、賑やかに楽しいクリスマスとなりました。



感謝

大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力誠にありがとうございます

一般寄付金

(R1.10～12)

月	寄付者(敬称略)	
10月分	10月分案基金 1件 フェニックス家族の会(クリスマス会)	本 国
11月分	日進交通株式会社 株式会社コジマ 小島常男 11月分案基金 1件	
12月分	匿名 石塚雄大 12月分案基金 4件 万代基金(株式会社万代)クリスマスプレゼント よいんいっばい文庫	
	共同募金寄付金(港区社会福祉協議会) 匿名(外来利用者様) 歳末見舞金 : 港区民生委員児童委員協議会	
		あさしお園 ゆうなぎ園

寄付物品

(R1.10～R2.1)

月	寄付者(敬称略)	物品名
10月分	匿名 大阪青果業青年クラブ	バギー・おむつ等 お菓子 多数
11月分	匿名 匿名 匿名	絵本 おもちゃ おもちゃ
12月分	匿名 川端秀彦 小野山あけみ	大型テレビ 大型液晶テレビ おもちゃ
1月分	匿名 長尾 実貴	おもちゃ 絵本
2月分	よいんいっばい文庫	図書本 多数
3月分	匿名 一般社団法人大阪府薬剤師会	モップ・清掃用具 救急箱
4月分	大阪青果業青年クラブ 一般社団法人生命保険協会 社団法人生命保険協会大阪府協会	お菓子 多数 ロビーソファ ツリ、チャイルドスタンド



大阪発達総合療育センター

URL : <http://osaka-drc.jp>

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)
フェニックス(医療型障がい児入所施設・療養介護事業・短期入所事業)
主として重症心身障がい児者
わかば(医療型障がい児入所施設・短期入所事業)主として肢体不自由児
ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)主として肢体不自由児
いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)
なでしこ(生活介護事業・児童発達支援事業)

〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21
TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会
発行責任者・梶浦一郎

訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業)
TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856
ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問介護事業)
TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856
〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16

大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関)
あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として肢体不自由児
ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として難聴児

〒552-0004 港区夕風2-5-3
TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524